

研究種別	一般研究	
研究課題名	暖地型牧草の栽培利用技術の開発	
研究期間	令和4年度 ~ 令和6年度	
	評価項目	平均点
1	研究の必要性	4.4
2	研究内容の新規性	4.2
3	研究目標、研究計画の妥当性	4.2
4	研究予算、研究体制の妥当性	3.8
	総合評点	4.2
[コメント] 寒地型牧草に比べ、暖地型牧草はウシにとって栄養価が低く、嗜好性も悪いことが知られている。 しかし本課題は、肉用牛繁殖の放牧を想定しているとのことで、試験設計は妥当である。温暖化適応策は草地分野でも必要で、本研究はそれに該当する。 今後研究を進める上で、以下の点に考慮頂きたい。 (1)暖地型牧草の試験を複数箇所で実施する。 中山間地だけでなく、より高地での栽培試験の情報も欲しい。 (2)暑熱に強い暖地型牧草だけでなく、近年頻発する豪雨対策に有効な草種も提示して欲しい。 肉用牛農家からの要望に応えるための研究課題であることから、今後の研究成果に期待する。		

研究種別	成長戦略研究	
研究課題名	アニマルウェルフェアに配慮した肥育豚の飼養管理技術の開発	
研究期間	令和4年度 ~ 令和6年度	
	評価項目	平均点
1	研究の必要性	5.0
2	研究内容の新規性	4.8
3	研究目標、研究計画の妥当性	4.8
4	研究予算、研究体制の妥当性	4.4
	総合評点	4.8
[コメント] 山梨県でのアニマルウェルフェア認証制度を後押しする研究課題である。 我が国ではアニマルウェルフェアの取り組みが遅れていることから、本研究を通じて山梨モデルのような、成功例を示すことができれば大きな成果となる。 今回、エンリッチメント資材の活用を想定しているが、これに限らず豚の攻撃行動を緩和するような資材の調査も実施して欲しい。海外でどの様に取り組んでいるか、情報提供頂けると生産者はありがたいと思う。 離乳から出荷までの長期試験となることから、測定項目や解析手法をしっかりと考えて臨んで欲しい。恐らく、飼養試験成績には大きな違いは出ないと予想されるので、それ以外の項目、例えば画像や動画を用いた行動調査を数値化できるようにすることが大事だと考える。 アニマルウェルフェアの重要性を生産者や消費者に浸透させるためにも、行政的な支援もお願いしたい。		